

第4学年 算数科学習指導案

1 単元名 分数

2 指導の立場

(1) 単元について

単位分数については、第2学年においては分割する操作を通して、 $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{4}$ などの簡単な分数を学習した。第3学年では、単位量より小さい量を、単位量を等分した何こ分ととらえることによって、分数で表すことができることを学習した。そして、1mを3等分した1こ分の長さを $\frac{1}{3}$ mと表すことを基に、その2こ分の長さは、 $\frac{2}{3}$ mと表すように、単位分数を用いて表すことも学習した。また、簡単な分数の加減計算について、単位分数のいくつ分ととらえて整数の計算に帰着して計算の仕方を考えてきた。

本単元では、分数の意味や表し方を理解し、1より大きい分数を仮分数や帯分数で表したり、簡単な場合について同値分数があることを説明したりして、分数の加法及び減法の計算ができるようにすることをねらいとする。また、数の見方の理解を深め、最適な計算処理の方法を考えさせたい。

(2) 本単元で働かせる数学的な見方・考え方

- ・分数を構成する基になる単位分数に着目し、1より大きい分数、同値分数をとらえる。
- ・単位分数に着目し、分数の加法及び減法の計算方法を考える。

(3) 本時について

本時のねらいは、同分母の帯分数の加法計算の仕方を、帯分数の構造や既習の分数の表し方を基に考え、説明することである。2通りの計算方法について考えることを通して、「帯分数を整数部分と分数部分に分けて計算すること」と「帯分数を仮分数になおして計算すること」を理解する。また、理解した上で、「計算方法はどちらがよいか」を考えることを通して、より最適な方法を見いだす力や数に対する見方を育みたい。

練習問題の中で繰り上がりのある計算の仕方ではつまずくことが予想される。その際に、既習内容である分数の表し方は帯分数か仮分数になるという考え方に立ち返り計算できるようにする。練習問題を行う中で、仲間の考え方に触れ、自分の考えや計算方法を確かなものにしていく。考えを深める交流活動として練習問題の場を位置付け、協働学習を大切に練習問題に取り組ませたい。

(4) 学習指導要領との関わり

A 数と計算

A(5) 同分母の分数の加法、減法

ア【知識及び技能】

- (ア) 簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを知ること。
- (イ) 同分母の分数の加法及び減法の計算ができること。

イ【思考力・判断力・表現力等】

- (ア) 数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりするとともに、それを日常に生かすこと。

(5) 単元の目標と評価規準

分数について理解を深め、同分母分数の加法及び減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して数を構成する単位分数を基にして、考える力を養い、分数とその加法及び減法の計算方法について考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力】	【学びに向かう力】
分数の意味や表し方、その加法及び減法の計算方法について理解し、1より大きい分数を仮分数や帯分数で表したり、簡単な場合について同値分数があることを説明したりしている。	数を構成する単位分数に着目し、同値分数や分数の加法及び減法の計算方法を考え、説明している。	1より大きい分数を仮分数や帯分数で表すことのよさや、分数を単位分数の個数でとらえ、加法及び減法の計算方法を考えた過程を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

3 研究との関わり

自ら学び合い、考えを深める子の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

研究内容2 考えを深める交流活動の設定

【本時に目指す「考えの深まり」のある姿】

分数の加法を通して、2通りの計算方法のよさに気づき、複数の問題を体験し、協働学習を進める中でよりよい計算方法を導き出すことができる姿。

【仮説】

既習内容を基にして自分の考え方を追究し、仲間とよりよい考え方を探究する。その考え方を基に解決が難しい問題に取り組む中でより考えが深まっていくであろう。

【達成のための手立て】

- ①根拠となる考え方を「着目ポイント」として整理し、見える化する。
- ②複数の問題に取り組ませ、どの場合においても同じことがいえるかを考えさせる。
- ③学習を振り返る場を設け、分かったことを表出させる。

4 単元指導計画

時	単元の見通し
1	単位分数を基に様々な分数をとらえ、真分数や仮分数、帯分数の表し方や意味を理解する。
2	真分数や仮分数、帯分数の特徴を理解し、図や数直線から数を読み取ったり、分数の大きさを比較したりすることができる。
3	数直線や単位分数を基にして、仮分数を帯分数になおす方法を考え、説明することができる。
4	数直線や単位分数を基にして、帯分数を仮分数になおす方法を考え、説明することができる。
5	数直線を用いて、異分母の同値分数や大小関係について説明することができる。
6	同分母分数の加減計算の仕方を、単位分数に着目して既習の加減計算の仕方を基に考え、説明することができる。
7 本時	同分母の帯分数の加法計算の仕方を、帯分数の構造や既習の分数の表し方を基に考え、説明することができる。
8	同分母の帯分数の減法計算の仕方を、帯分数の構造や既習の加法計算を基に考え、説明することができる。
9	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方ができる。

5 本時の目標 (7/9)

同分母の帯分数の加法計算の仕方を考える活動を通して、帯分数の構造や既習の分数の表し方を基に、より最適な方法を選択し、説明することができる。

★ 個別→協働の学習方法を基に考えを深め合う授業

6 本時の展開

	ねらい	学習活動	研究との関わり
つかむ	問題を捉え、これまでの学習との違いに目を向け、本時の見通しをもつ。	1. 問題把握をして解決の見通しをもつ。 〈問題〉 $1\frac{2}{5} + 2\frac{2}{5}$ ・帯分数を仮分数に直すと前の時間のように計算できそう。 ・図を見ると整数部分と分数部分に分けて計算できそう。 2. 課題を確認する。 〈課題〉 $1\frac{3}{5} + 2\frac{1}{5}$ の計算の仕方を考えよう。 3. 個別最適学習⇔協働学習 $1\frac{3}{5} + 2\frac{1}{5} = 3 + \frac{4}{5} = 3\frac{4}{5} \qquad 1\frac{3}{5} + 2\frac{1}{5} = \frac{8}{5} + \frac{11}{5} = \frac{19}{5}$	〈研究内容1〉 前時の学習との違いに目を向け本時の問題を捉えることで、本時の学習の見通しをもてるようにする。 〈研究内容2〉 ★児童が、根拠をもってよりよい考えを追究し、それについて教師が交流活動を設定することで、児童の思考の深まりにつなげる。
	既習内容をもとに自分の考えをもち、仲間と交流することで自分の考えを確かなものにする。	帯分数を、整数と分数に分けて計算する 帯分数を、仮分数になおして計算する 4. 考えを全体で共有し、最適な計算の仕方を考える。 ・ $3\frac{4}{5}$ と $\frac{19}{5}$ は等しいので、どちらの計算方法でも計算できる。 ・ 帯分数の計算は、帯分数を仮分数になおして計算する方法よりも、整数部分と分数部分に分けて計算した方が早くて簡単に解けるね。 5. 別の問題で最適な計算方法を確認する。 〈問題〉 $1\frac{2}{5} + \frac{4}{5}$ の計算の仕方を考える。 ・ 整数部分と分数部分に分けて計算すると、整数部分は1、分数部分は $\frac{2}{5} + \frac{4}{5}$ で $\frac{6}{5}$ 、合わせて $1\frac{6}{5}$ になるね。 ・ $1\frac{6}{5}$ のままではいけないよ。分数部分の $\frac{6}{5}$ は $1\frac{1}{5}$ になおさないといけないから、 $2\frac{1}{5}$ になると思うよ。 ・ 計算の最後に分数の形を確認することは必要だけど、この問題でも、整数部分と分数部分に分けて計算すると、早くて簡単に計算できるね。 6. まとめる。 〈まとめ〉 帯分数のたし算には、次の2つの計算のしかたがある。 ① 帯分数を、整数部分と分数部分に分けて計算する。 ② 帯分数を、仮分数になおして計算する。 ただし、今回の問題は、①の方が早くて簡単に計算することができる。	〈研究内容1〉 ★教師が児童に、計算方法や考えの基準を問いかけることで、児童自ら最適な計算方法を考え、たどり着くことができるようにする。
深める			〈研究内容1〉 ★別の計算問題を解く活動で、児童が見いだした最適な計算方法が改めて最適であると確認できるよう、教師が早く簡単に計算できる観点を基に声掛けを行う。
まとめる	最適な計算方法を選択し練習問題に取り組む。	7. 練習問題に取り組む。 8. 振り返りをする。	〈研究内容3〉 振り返りの視点を示して、本時の学びを振り返られるようにする。 【評価規準】(思・判・表) 同分母の帯分数の加法を、帯分数の構造や既習の分数の表し方を基にして、最適な方法を説明している。(ノート、発言)

4 単元指導計画

時	単元の見通し
1	単位分数を基に様々な分数をとらえ、真分数や仮分数、帯分数の表し方や意味を理解する。
2	真分数や仮分数、帯分数の特徴を理解し、図や数直線から数を読み取ったり、分数の大きさを比較したりすることができる。
3	数直線や単位分数を基にして、仮分数を帯分数になおす方法を考え、説明することができる。
4	数直線や単位分数を基にして、帯分数を仮分数になおす方法を考え、説明することができる。
5	数直線を用いて、異分母の同値分数や大小関係について説明することができる。
6	同分母分数の加減計算の仕方を、単位分数に着目して既習の加減計算の仕方を基に考え、説明することができる。
7 本時	同分母の帯分数の加法計算の仕方を、帯分数の構造や既習の分数の表し方を基に考え、説明することができる。
8	同分母の帯分数の減法計算の仕方を、帯分数の構造や既習の加法計算を基に考え、説明することができる。
9	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方ができる。

5 本時の目標 (7/9)

同分母の帯分数の加法計算の仕方を考える活動を通して、帯分数の構造や既習の分数の表し方を基に、より最適な方法を選択し、説明することができる。

★ 学習方法 (個別・協働) を自己選択して自ら学ぶ授業

6 本時の展開

	ねらい	学習活動	研究との関わり
つかむ	問題を捉え、これまでの学習との違いに目を向け、本時の見通しをもつ。	1. 問題把握をして解決の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〈問題〉 $1\frac{3}{5} + 2\frac{1}{5}$</div> <ul style="list-style-type: none"> ・帯分数を仮分数に直すと前の時間のように計算できそう。 ・図を見ると整数部分と分数部分に分けて計算できそう。 $1\frac{3}{5} + 2\frac{1}{5}$	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〈研究内容1〉</div> <p>★前時の学習との違いに目を向けさせることで、一人一人に本時の問題を捉えさせ、各自で見通しをもち、問題に向かうことができるようにする。</p>
	既習内容をもとに自分の考えをもち、仲間と交流することで自分の考えを確かめる。	2. 課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〈課題〉 帯分数のたし算はどのように計算するとよいか。</div> 3. ★個別最適学習⇄協働学習 この問題の場合どちらの計算方法が最適か考える。 $1\frac{3}{5} + 2\frac{1}{5} = 3 + \frac{4}{5} = 3\frac{4}{5} \qquad 1\frac{3}{5} + 2\frac{1}{5} = \frac{8}{5} + \frac{11}{5} = \frac{19}{5}$ <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">帯分数を整数と分数に分けて計算する</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">帯分数を仮分数になおして計算する</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">早くて簡単。間違えがなさそう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どんな問題でもできそう。</div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〈研究内容2〉</div> <p>児童に2つの計算のよさについて根拠をもって話し合わせ、交流活動を設定することで、児童の思考の深まりにつなげる。</p>
深める		4. 別の問題で計算方法を確認し、どちらが最適か判断する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〈問題〉 $1\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$</div> <ul style="list-style-type: none"> ・整数部分と分数部分に分けて計算すると、$1\frac{3}{5}$になる。 ・そのまま計算すると早い。答えを帯分数か仮分数に直さないといけない。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〈研究内容1〉</div> <p>★2通りの計算方法のよさに触れ、「早い、簡単、正確」の視点で最適な計算方法を問う。</p>
		5. まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">(1) 帯分数を、整数部分と分数部分に分けて計算する。 (2) 帯分数を、仮分数になおして計算する ・帯分数のたし算は、(1) で計算するとよい。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〈研究内容2〉</div> <p>★どの問題でも同じことがいえるか問いかけ、それぞれの計算方法を試す中で、考えを確かめるものにさせていく。</p>
まとめる		6. 3人グループで練習問題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・整数と分数に分けて計算した方が早い。 ・⑤、⑥、⑦、⑧の問題は答えの書き方に注意しないとけない。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">〈研究内容3〉</div> <p>振り返りの視点を示して、本時の学びを振り返られるようにする。</p>
	最適な計算方法を選択し練習問題に取り組む。	7. 振り返りをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【評価規準】(思・判・表)</div> <p>同分母の帯分数の加法を、帯分数の構造や既習の分数の表し方を基にして、最適な方法を説明している。(ノート、発言)</p>

第4学年 算数科学習指導案

1. 単元名 「分数」

2. 指導の立場

(1) 単元について

本単元では、分数の意味や表し方について理解を深めるとともに、1より大きい分数を仮分数や帯分数で表したり、同値分数があることを説明したり、分数の加法及び減法の計算ができるようにしたりすることがねらいである。

第3学年までに、単位分数を用いて量を表すことや分母が10の分数と1/10の位までの小数の関係、同分母分数の加減計算について学んできた。

本単元では、第3学年までの分数の学習を振り返りながら、帯分数や仮分数の表現のそれぞれのよさを理解したり、分数を構成する基になる単位分数に着目し、1より大きい分数の同値分数の理解を深めたりする。さらに、分数の加法及び減法の計算方法について考え、その計算ができる力を育成していく。

(2) 本単元で働かせる数学的な見方・考え方

- ・分数を数直線で表したり、分数の相等や大小関係を考えたりすることを通して、分数を数として抽象化し、整数や小数と同じ数としてとらえること。
- ・単位分数に着目し、そのいくつかで考えることを通して、これまでに学習した整数や小数の加減計算と同じ原理で計算することができること。

(3) 本時について

少人数学級で学ぶ子どもたちは、様々なつまずきを抱え、算数への苦手意識が強い。難問に出会うと、活動を投げ出してしまいうこともある。「できた。」という達成感を味わわせるためには、興味をもって学び続けるための工夫が大切である。

本時では、学びの形態として、中央のテーブルに集まり、教師と共に協働学習を行うことから始め、課題追究への見通しをもたせる。そこで、本時の問題を解くための着目ポイント及びつまずきやすい部分を取り上げ、以下の4点について教師と共に確認し、問題を解いていく。

- ・本時の単位分数は、 $\frac{1}{5}$ であること。
- ・パターンブロックを使って仮分数を帯分数に、帯分数を仮分数に直す方法を確認する。
- ・帯分数の計算は、整数と分数に分けて計算できること。
- ・整数と仮分数の組み合わせの帯分数は、整数と真分数の組み合わせに直すこと。

個別最適な学習では、学び方を自分で選択できるようにする。協働学習と個別最適な学習が双方向へと働く場の設定は、どの子どもも安心して学ぶ環境作りにつながると考える。

さらに、習熟学習では「算数王国」を位置付け、自分で問題を選んで取り組んだり問題を作って仲間と一緒に解いたりするなどの発展的な学習にも挑戦し、学ぶ楽しさを味わわせたい。

(4) 学習指導要領との関わり

<p>A (5) 同分母の分数の加法、減法 (5) 分数とその加法及び減法にかかわる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。</p> <p>ア【知識及び技能】 (ア) 簡単な場合について、大きさの等しい分数があることを知ること。 (イ) 同分母の分数の加法及び減法の計算ができること。</p> <p>イ【思考力・判断力・表現力等】 (ア) 数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探したり、計算の仕方を考えたりするとともに、それを日常に生かすこと。 【用語・記号】真分数 仮分数 帯分数</p>
--

(5) 単元の目標と評価規準

分数の理解を深め、同分母分数の加法及び減法の計算ができるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して数を構成する単位分数について考える力を養い、分数とその加減法の計算方法を考えた過程を振り返り、そのよさに気付き今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体的に学習に取り組む態度】
○分数の意味や表し方について理解を深めるとともに、同値分数に着目することや同分母分数の加法や減法の意味や計算の仕方について理解しようとしている。	○数を構成する単位分数に着目し、同値分数や分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、説明している。	○1より大きい分数を仮分数や帯分数で表すことのよさや、分数を単位分数の個数でとらえ、加法及び減法の計算方法を考えた過程を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

3. 研究との関わり

自ら学び合い、考えを深める子の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

研究内容2 考えを深める交流活動の設定

【本時に目指す「協働的な学び」と「個別最適な学び」の姿】

教師と共に既習事項を振り返ったり、本時の課題解決につながる「着目ポイント」を確かめたりしながら解決方法を一緒に考える場を少人数の協働的な学びとし、どの子ども、見通しをもって個別最適な学習へ向かうことができるようにする。特に、個別最適な学びでは、「一人で、仲間と、先生と…」など、問題解決に向けて自分で学び方を選択しながら最後までやり切る頼もしい子をを目指す。

【仮説】

教師や仲間と共に取り組む協働的な学びと個別最適な学びが双方向的に働く学習活動を展開すれば、粘り強く問題に取り組み、次の学習への期待感を高める頼もしい子が育つだろう。

【達成のための手立て】

- ① 教室中央のテーブルを「教師と共に考えるコーナー」として位置付け、困ったときは自由に行き来できる環境を設定することで、粘り強く取り組む意欲を高める。
- ② 問題を写すことに時間がかかり、問題を解く頃には集中力が切れてしまう実態を踏まえ、一問一答式のミニプリントを使い、1問ずつ確実に進めていく。教師が即丸付けをしたり、着目ポイントを確かめたりしながら進め、やり切ったミニプリントを増やしていくことで、視覚的にも達成感を味わうことができるようになる。
- ③ 自分で問題が解けないときどうするか、困っている子がいたらどうするかなどを、その都度話題にし、共に考え話し合いながら学習を進めることで、少人数教室での温かい仲間意識を育てる。

4. 単元指導計画

時	単元の見通し
1	単位分数を基に分数をとらえ、真分数や仮分数、帯分数の表し方の意味を理解する。
2	数直線や単位分数に着目し、仮分数や帯分数で表す。
3	数直線や単位分数に着目し、仮分数を帯分数に直す。
4	数直線や単位分数に着目し、帯分数を仮分数に直す。
5	数直線に着目し、異分母の同値分数を見つける。
6	単位分数の個数に着目し、同分母の分数の加減計算の仕方を考える。
7 (本時)	帯分数の構造や既習の分数の表し方に着目し、同分母の帯分数の加法計算の仕方を考える。
8	帯分数の構造や既習の加法計算の仕方に着目し、同分母の帯分数の減法計算の仕方を考える。
9	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。

5. 本時の目標 (7/9)

帯分数の構造や単位分数のいくつ分という表し方に着目することを通して、同分母の帯分数の加法の計算方法を考え、計算することができる。

	ねらい	学習過程	研究との関わり
つかむ	既習事項を想起し、帯分数のたし算のやり方の見通しをもつ。 問題を捉える。	1. 本時にかかわる内容の復習をする。 $\bigcirc \frac{4}{5} + \frac{3}{5} = \frac{7}{5}$ $\bigcirc \frac{10}{3} - \frac{5}{3} = \frac{5}{3}$ $\bigcirc \frac{8}{6} - \frac{2}{6} = \frac{6}{6} = 1$ \bigcirc 既習の着目ポイント (単位分数の何個分という考え方) を確認する。	<研究内容①> ・本時に関わる着目ポイントやつまづきやすい部分を取り上げ、教師と共に確認することを通して、どの子ども問題解決への見通しをもつようにする。
	深める	2. 問題把握 $1\frac{3}{5} + 2\frac{1}{5}$ の計算のしかたを考えよう。 3. 課題化 帯分数のたし算は、どのように計算するのだろう。	<研究内容②> ・個別最適な学びでは、「一人で、仲間と、先生と…」など、学び方を自分で選択して取り組むことを通して、粘り強く取り組む気持ちを高めていく。また、その姿を価値付け、広げていく。 ・学習プリントには、「着目ポイント」を記入する枠を設け、数学的な見方・考え方を意識しながら問題解決ができるようにする。
まとめる	教師と一緒に着目ポイントを確認しながら問題を解く見通しをもつ。	4. 教師と共に協働学習 ↔ 個別最適な学習 教師や仲間と共に考え、見通しをもつ ・パターンブロックやテープ図を見て、答えの見当をつける。 <整数と分数に分けて計算> ・帯分数とテープ図やパターンブロックを関連させ、操作しながら考える。 <仮分数に直して計算> ・単位分数のいくつ分という着目ポイントを使って考える。	・自分で問題が解けないときどうするか、困っている子がいたらどうするかなどを、その都度話題にし、共に考え話し合いながら学習を進めることで、少人数教室での温かい仲間意識を育てる。
	学び方を自分で選択し、問題に取り組む。	5. 算数王国 (習熟学習) に取り組む。 ・教科書の練習問題に取り組む。 ・問題を解くとき、着目ポイントを書きしてから取り組む。 ・この問題は、難しいな。友達と一緒に考えてみたいな。 ・ここからは、自分でできそうだな。やってみよう。 ・自分で問題をつくって、友達と一緒に解いてみよう。 ・帯分数のひき算も着目ポイントを使って考えれば、問題が解けそうだな。問題を作ってみよう。	<研究内容③> ・振り返りの場では、問題解決において働かせた見方・考え方や既習事項とのつながり、仲間との関わりについて振り返ることで、次時への意欲と見通しをもたせる。
	次時につながるまとめと振り返りをする。	6. 「振り返りシート」に基づき、本時のまとめと振り返りをする。 ・帯分数のたし算は、整数と分数どうしをたす方法と、仮分数に直して計算する方法がある。 ・単位分数のいくつ分に着目して計算すると簡単にできる。	<振り返り項目> ・「着目ポイントは何か？」と考えた。 ・友達と一緒に考えたり話したりした。 ・前にやった学習と結び付けて考えた。 ・今日の「着目ポイント」を書く。 ・その他 (思ったことや友達と話したことなど)

【評価規準】(知・技)
帯分数の構造や単位分数のいくつ分という表し方に着目し、同分母の帯分数の加法計算をしている。(プリント、対話)

第5学年 算数科学習指導案

1. 単元名 分数のたし算とひき算

2. 指導の立場

(1) 単元について

児童はこれまでに、真分数や仮分数、帯分数について、数を構成する単位に着目し、大きさの等しい分数を探すことや、それを日常生活につなげて考えることを学習してきた。また、加減計算については、和が1を超える同分母の分数の加法及び減法について、数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考えることを学習してきた。

本単元では、分数を構成する単位に着目し、分数の相等及び大小関係について考察できるようにするとともに、異分母の分数の加法、減法の計算の仕方を考え、理解し、計算することができる力を育成する。

(2) 本単元で働かせる数学的な見方・考え方

- ・分母と分子を用いて表現された分数の意味に着目し、大きさの等しい分数や大小関係について考える。
- ・単位分数に着目し、加減計算で単位分数の何こ分かという考え方を働かせる。

(3) 本時について

本時は、前時までに学習した異分母の分数の加減計算の仕方を基に、分数と小数の混じった加減計算の仕方を求めていく。分数を小数で表し小数にそろえて計算する方法と、小数を分数で表し分数にそろえて計算する方法の2種類があることに気づき、どちらがよりよいかを複数の視点から考えることで、分数に統一すれば、どんなときでも計算することができることを実感することを目指す。ここでいう複数の視点とは、「正確さ」「簡単さ」「どんなときでもできる」など、単元の学習を通して児童みんなで作り上げていくものことである。また、自分なりの数学的処理の過程を選び、判断することで、「どのように処理することがよりよいか」という学びに対する個人的な考え方、態度を育むことにつなげていけると考える。

児童は、分数同士、小数同士の加減計算の仕方を学習していることから、分数、小数のそれぞれにそろえる方法ができそうだという見通しをもつことができると考える。そのため、見通しづくりは全体で行い、課題化後は自ら学ぶことができるように3人グループで学び進める。まずは一人で考え、困ったところから自然とグループでの学習に移行する。

(4) 学習指導要領との関わり

A数と計算

(4) 分数の意味と表し方

ア 【知識及び技能】

(ウ) 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。

(エ) 分数の相等及び大小について知り、大小を比べること。

イ 【思考力、判断力、表現力等】

(ア) 数を構成する単位に着目し、数の相等及び大小関係について考察すること。

(5) 分数の加法、減法

ア 【知識及び技能】

(ア) 異分母の分数の加法及び減法の計算ができること。

イ 【思考力、判断力、表現力等】

(ア) 分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えること。

(5) 単元の目標と評価規準

分数の性質や異分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、約分、通分の仕方や計算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、分数の性質や数学的表現を用いて約分、通分の仕方や計算の仕方を考えた過程を振り返り、今後の学習に活用しようとする態度を養う。

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
分数の性質や約分、通分の意味、異分母の分数の加法及び減法の意味について理解するとともに、約分、通分、異分母の分数の加減計算をしている。	単位分数に着目して、分数の相等及び大小関係や、異分母の分数の加減計算の仕方を図や式などを用いて考え表現している。	約分、通分の意味や、異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を、図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、学習したことを今後の学習に活用しようとしていたりしている。

3. 研究との関わり

自ら学び合い、考えを深める子の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

研究内容2 考えを深める交流活動の設定

【本時に目指す「考えの深まり」のある姿】

分数、小数のそれぞれにそろえる方法を見つけ、どちらの方法がよりよいかを一人で考えたり、仲間と練り合ったりし、複数の視点から検討する姿。

【仮説】

「どちらの方法がよりよいか」を考える複数の視点を基に対話活動をすることで、主体的な交流を生んだり、考えを深めたりすることができるだろう。

【達成のための手立て】

- ① 単元を通して、よりよい方法を見つけるための視点を見いだす。
- ② 自己調整しながら考えられるように、意図的な3人グループを構成する。
- ③ 複数の視点からそれぞれの考えを検討できるような問いかけをする。

4. 単元指導計画

時	単元の見通し
1	異分母の分数の加減計算について、分母をそろえることの意味を考え、説明することができる。
2	分数の分母と分子に同じ数をかけても、同じ数でわっても、分数の大きさは変わらないことを見だし、大きさの等しい分数のつくり方を説明することができる。
3	「約分」の意味について理解する。
4	「通分」の意味について理解する。
5	
6	異分母の分数の加減計算の仕方を振り返り、説明することができる。
7	異分母の帯分数の加減計算の仕方を理解し、その計算ができる。
8 本時	分数と小数の混じった加減計算の仕方を、数の表し方に着目して考え、説明することができる。
9	分数を用いた時間の表し方を理解する。
10	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。

5. 本時の目標 (8/10)

分数と小数が混じった加減計算の仕方を考える活動を通して、分数に統一する方法と小数に統一する方法があることに気付き、どちらの方法がよりよいか複数の視点から考え、説明することができる。

6. 本時の展開

	ねらい	学習過程	研究との関わり
つかむ	問題を把握し、解決の見通しをもつ。	<p>1 問題場面から学習の目的をもつ。</p> <p>問 $\frac{2}{5} + 0.3$ を計算しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前は分数だけの計算だったけれど、今回は分数と小数が混じっている計算だ。 ・小数を分数で表したら計算できそうだ。 ・分数を小数で表してもできそうだ。 <p>課 分数と小数がまじった式は、どのように計算するのだろうか。</p>	<p>【研究内容1】 前時と本時の問題の違いや既習事項とのつながりを確認することで、本時の学習の見通しがもてるようにする。</p> <p>【研究内容2】 よりよい方法を見付けるといふ交流の目的を共有することで、考えを深められるようにする。</p>
	自分の考えをもち、仲間と交流することで、よりよい方法を考える。	<p>2 方法や学び方を自己選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは一人で考えてみよう。 ・〇〇さんに関いたら分からないところがすっきりするかな。 ・「分母が違ってても大きさが等しい分数がある」ことは使えそうだな。 <p>3 考え方を確かめる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【小数にそろえる方法】</p> $\frac{2}{5} = 2 \div 5 = 0.4$ $\frac{2}{5} + 0.3 = 0.4 + 0.3 = 0.7 \left(\frac{7}{10}\right)$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【分数にそろえる方法】</p> $\frac{2}{5} + 0.3 = \frac{2}{5} + \frac{3}{10}$ $= \frac{4}{10} + \frac{3}{10}$ $= \frac{7}{10} \quad (0.7)$ </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・分数にそろえても小数にそろえてもどちらもできる。 <p>4 他の問題でも試す。</p> <p>問 $\frac{2}{3} + 0.5$ を計算しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分数は小数で表せないときがあるね。 ・いつでもできるのは分数で表す方法だね。 ・つまり、よりよいのは分数で表す方法だね。 <p>5 まとめる。</p> <p>※ 分数と小数がまじった計算は、どちらかにそろえれば計算できる。しかし、分数は小数で表せないことがあるため、分数にそろえる方法がよりよいといえる。</p>	<p>【研究内容1】 3人グループにし、自由交流もよいこととすることで、自己調整しながら学ぶことができるようにする。</p> <p>【研究内容2】 どちらの方法がよりよいか理由をはっきりさせるよう問う。</p>
深める	課題に立ち返り、他の場合も考えることで、よりよい方法を確かめる。		<p>【評価規準】(思・判・表) 分数と小数が混じった加減計算の仕方には、分数に統一する方法と小数に統一する方法があることに気付き、どちらの方法がよりよいか説明している。 (発言・ロイロノート・ノート)</p>
	課題に向かって取り組めたか、本時の自己選択は自分にとってよかったか振り返る。	<p>6 練習問題</p> <p>7 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大きさの等しい分数や小数」の考え方をを使って考えることができた。 	<p>【研究内容3】 振り返りの視点を示すことで、数学的な見方・考え方と協働学習について振り返りをする。</p>
まとめる			

第6学年 算数科学習指導案

1. 単元名 比例と反比例

2. 指導の立場

(1) 単元について

第5学年「比例」では、2つの数が互いに関係して変化することの表し方の一つであり、一方の数が増えると、もう一方も一定の割合で増える関係が比例と定義した。

本単元では、伴って変わる2つの数量を見いだして、比例・反比例の関係に着目し、「変化のきまり」や「対応のきまり」を考察し、関数的に考える力を伸ばしたい。そして、問題解決の場面では、比例の関係に着目するよさに気づき、今後の学習や日常生活に生かそうとする態度も育てたい。また、目的に応じて、表、式、グラフを用いてそれらの関係を表現し、変化や対応の特徴を捉えていくことで、それぞれの数学的表現の特徴やよさにも気付かせたい。

(2) 本単元で働かせる数学的な見方・考え方

- ・比例の関係のときに成り立つきまりに着目し、比例の式や「決まった数」の意味について考察し、比例のグラフを用いて、2つの数量の関係を表現したり、変化や対応の特徴を見いだしたりして問題解決に活用する。
- ・生活や学習に比例が活用できる場面を見つけ、比例をもとにした問題解決の方法を日常生活に生かす。

(3) 本時について

本時では、画用紙300枚を、全部数えずに用意する方法を考える活動を通して、3つの考え方を見いだす。そして、共通点を問うことによって、比例の考え方が問題解決に生かせることに気付く。さらに、改めて3つの考え方が本当に比例なのかを問い、考えさせることで表や式、言葉等を使いながら説明し、改めて比例の関係を活用すると問題解決ができることを実感させたい。

そのための手立てとして、協働的な学びを取り入れる。「単位量あたりの大きさ」「比例の性質」「決まった数」をもとにした3つの考え方に共通しているものに着目させるだけでなく、「なぜ、比例と言えるのか。」「本当にそれは比例と言えるのか。」と問い続けることによって、立ち止まって考えを再構築し、改めて比例の関係を活用すると問題解決ができることを仲間と考えを深めていくことを目指す。

(4) 学習指導要領との関わり

A 数と計算

- (2) 数量の関係を表す式に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア【知識及び技能】

- (ア) 数量を表す言葉や□、△などの代わりに、a、xなどの文字を用いて式に表したり、文字に数を当てはめて調べたりすること。

イ【思考力・判断力・表現力等】

- (ア) 問題場面の数量の關係に着目し、数量の關係を簡潔かつ一般的に表現したり、式の意味を読み取ったりすること。

(5) 単元の目標と評価規準

比例や反比例の關係について理解し、伴って変わる2つの数量やそれらの關係に着目し、表や式、グラフを用いて変化や対応の特徴を見いだして2つの数量の關係を考察する力を養うとともに、比例や反比例の關係を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力】	【主体的に学習に取り組む態度】
・比例や反比例の意味や性質、表やグラフの特徴について理解し、比例や反比例の關係にある2つの数量の關係を表や式、グラフに表したり、比例の關係を用いて問題解決したりしている。	・伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの關係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの關係を表現して変化や対応の特徴を見いだし問題解決に活用している。	・数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

3. 研究との関わり

自ら学び合い、考えを深める子の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

研究内容2 考えを深める交流活動の設定

【本時に目指す「考えの深まり」のある姿】

自分の考えを出し合いながら、課題解決からまとめまでを行い、グループの児童全員が理解するために学び合う姿。

【仮説】

既習学習の活用方法を考え、式や言葉等を関連付けて説明し合う協働的な学びの活動を通して、グループ全員の児童が課題解決できるであろう。

【達成のための手立て】

- ① 単元を通して、確かな考えを求め続け、共有し、学ぶ視点を見いだす。
- ② 自己調整しながら考えられるように、意図的な3人グループを構成する。
- ③ 立ち止まって、考えを再構築できるような問いかけをする。

4. 単元指導計画

時	単元の見通し
1	比例の関係に着目し、小数倍、分数倍のときも、倍の関係が成り立つか考える。
2	2つの数量の変わり方の割合に着目し、比例の関係について理解する。
3	比例の関係のときに成り立つさまりに着目し、比例の式や「決まった数」の多様な意味について考える。
4	比例関係にある2つの数量の値に着目し、比例のグラフに表すことができる。
5	比例のグラフに着目し、式や表の利用とともに事象の様子を考える。
6・7	2本の比例のグラフに着目し、それぞれの特徴や事象の様子等を考える。
8 (本時)	比例関係にある数量を見だし、問題解決を図る。
9	比例関係に着目し、問題解決を図る。
10	学習内容を適用して、問題解決を図る。
11	2つの数量の関係に着目し、反比例について理解する。
12	反比例する2つの数量の関係に着目し、反比例の性質について理解する。
13	反比例のときに成り立つさまりに着目し、反比例の式や関係について考える。
14	反比例の関係にある2つの数量の値に着目し、反比例のグラフの特徴について考える。
15・16	練習問題に取り組む。

5. 本時の目標 (8/16)

画用紙 300 枚を、全部数えなくて用意する方法を考える活動を通して、比例の関係を活用すると問題解決できることに気づき、表や式を用いて説明することができる。

6. 本時の展開

	ねらい	学習過程	研究との関わり									
つかむ	問題を把握し、解決の見通しをもつ。	<p>1. 問題場面から学習の目的をもつ。</p> <p>〈問題〉画用紙 10 枚の重さをはかったら、92 g ありました。画用紙 300 枚を、全部数えなくて用意する方法を考えよう。</p> <p>〈課題〉枚数と重さの関係を使って、求め方を考えよう。</p> <p>2. 方法や学び方を自己選択する。</p> <p>3. 考え方を確かめる。</p>	<p>【研究内容①】</p> <p>既習事項とのつながりを確認することで、本時の学習の見通しがもてるようにする。</p> <p>【研究内容①】</p> <p>3人のグループ隊形にし、自由交流もよいこととすることで、学びの中で自己調整できるようにする。</p>									
深める	自分の考えをもち、仲間と交流することで、考え方を確かめる。	<p>1枚の重さを求める。 比例の関係を使う。 決まった数を求める。</p> <p>4. 考えを再構築する。</p> <p>問い：「なぜ、比例と言えるのか。」</p> <p>・今までは5年生や本時までの比例の学習では表を横に見て比例であると判断していた。一方の数が増えると、もう一方も一定の割合で増える関係が比例の定義であり、横の見方だけでなく、縦の見方で見ても比例と言える。</p> <p>5. 他の問題でも試す。</p> <p>※実際の画用紙10枚と定規を用意して</p> <p>〈問題〉この画用紙300枚を用意する方法を考えよう。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="3">画用紙の枚数と厚さ</th> </tr> <tr> <td>枚数</td> <td>10枚</td> <td>300枚</td> </tr> <tr> <td>厚さ</td> <td>2mm</td> <td>□mm</td> </tr> </table> <p>300 ÷ 10 = 30 2 × 30 = 60 答え 厚さ 60 mm の画用紙を用意する。</p>	画用紙の枚数と厚さ			枚数	10枚	300枚	厚さ	2mm	□mm	<p>【研究内容②】</p> <p>式や表等に関連付け、グループ全員で考えを出し合うことで、3つの考えの意図を仲間と考え、課題解決を行うようにする。</p> <p>【研究内容②】</p> <p>協働学習では、3つの共通点に着目し、表や式、言葉等を使って改めて比例であることを確かめるために、考えを再構築する。</p> <p>【研究内容③】</p> <p>振り返りの視点を示すことで、数学的な見方・考え方と協働学習について振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時に学んだこと ・仲間の考えから深まったこと ・疑問に思ったこと
画用紙の枚数と厚さ												
枚数	10枚	300枚										
厚さ	2mm	□mm										
まとめ	課題に向かって取り組めたか、本時の自己選択は自分にとってよかったか振り返る。	<p>6. まとめる。</p> <p>〈まとめ〉画用紙の重さは枚数に比例すると考えて、その関係を使うと、画用紙を全部数えなくても、およその枚数を用意することができる。</p> <p>7. 振り返る。</p>	<p>【評価規準】(思・判・表)</p> <p>比例の関係を活用すると問題解決できることに気づき、表や式、言葉等を用いて説明している。(発言・ICT・ノート)</p>									

第6学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして審こう
 教材名 『鳥獣戯画』を読む／発見、日本文化のみりよく

2 指導の立場

(1) 単元について

本単元の目標は、「筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書く」ことである。そのため、本単元は、筆者のものの見方や考え方、表現の工夫を捉え、それらを活用しながら日本文化の良さを伝える文章を書く「読むこと」と「書くこと」の複合単元として扱う。

教材文『鳥獣戯画』を読むは国宝『鳥獣人物戯画』の一場面を取り上げて作品の価値を解説した説明的文章である。巧みな表現方法や分かりやすい論の展開によって筆者の主張が強く伝わってくる。アニメーション映画監督でもある筆者の高畑勲氏は、この教材においてあえて絵を切り離して場面ごとに説明するなどその特徴的な視点や表現方法によって『鳥獣人物戯画』の価値を表現している。絵の見せ方だけでなく、書き出しや会話文、体言止め、呼びかけなど、読み手をひきつける工夫が随所に散りばめられている。このような筆者のものの見方や考え方、そして論の進め方を捉えて読ませていきたい。

最後に、日本文化について学校図書館等を利用して調べ、興味をもった日本文化の魅力を伝える文章を書くという言語活動を設定する。『鳥獣戯画』を読むで見つけた筆者の書き方の工夫を取り入れながら、自分が感じたよさを効果的に伝えられるようにしたい。

(2) 本単元で働かせる国語的な見方・考え方

- ・絵と文章を照らし合わせながら、筆者の絵や絵巻物に対する評価や論の進め方を読み取ること。
- ・文頭表現や文末表現などの言葉に着目して、筆者の書き方の工夫を読み取ること。
- ・『鳥獣戯画』を読むで学習した筆者の書き方の工夫を取り入れながら、日本文化の魅力を伝える文章を書くこと。

(3) 本時について

単元を貫く言語活動「日本文化のみりよくを伝えよう」では、筆者の書き方の工夫とその効果を取り入れながら日本文化の魅力を効果的に伝える文章を書く活動となる。

そこで本時は、筆者が、「鳥獣人物戯画」の一場面の評価を読者に伝えるためにどのような工夫をしているのか読み取っていく。その際に、「表現の工夫」「絵の示し方」「論の展開」の3つの観点で筆者の工夫を読み取り、文頭表現や文末表現に着目させながら、その効果について考えられるようにしていく。また、班の仲間と話し合いながら、書き方の工夫の効果や筆者の意図について考えが深まるようにする。

(4) 学習指導要領との関わり

【知識及び技能】
(1) ク 比喩や反復などの表現に気付くこと。
(3) オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。
【思考力・判断力・表現力等】
B 書くこと
(1) ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き方を工夫すること。
(2) ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。
C 読むこと
(1) ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
ウ 目的や意図に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること。
(2) ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

(5) 単元の目標と評価規準

- ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。(知(1)ク)
- ◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思B(1)ウ)
- ◎目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思C(1)ウ)
- 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。(知(3)オ)
- 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。(思C(1)ア)

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力】	【学びに向かう力】
・比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。	・「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	・粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書くこととしている。
・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。	・「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。	
	・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。	

3 研究との関わり

自ら学び合い、考えを深める子の育成
 ～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

研究内容2 考えを深める交流活動の設定

【本時に目指す「協働的に学ぶ」姿】
 班の仲間と「表現の工夫」「絵の示し方」「論の展開」の3つの観点で、筆者の書き方の工夫を話し合い、工夫の効果や筆者の意図を考える姿。

【仮説】
 班の仲間と「表現の工夫」「絵の示し方」「論の展開」の3つの観点で話し合う活動を行えば、筆者のものの見方や考え方、論の進め方を読み取り、その工夫の効果や筆者の意図を考えることができるであろう。

【達成のための手立て】

- 工夫① 「表現の工夫」「絵の示し方」「論の展開」の3つの観点で読み取りを行うこと。
- 工夫② 文頭表現や文末表現などの読み取りの視点を活用すること。
- 工夫③ 班別交流が深まるような問い返しを工夫すること。

4 単元指導計画

次	時	単元の見通し
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 単元のリード文を読み、学習の見通しをもつ。 「問いをもと」をもとに、筆者の表現や論の展開の工夫に目を向けられるようにする。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> 絵と文章を照らし合わせながら読み、「鳥獣戯画」に対する筆者の評価を捉える。
	3 【本時】	<ul style="list-style-type: none"> 筆者のものの見方や、それを伝えるための工夫について読み取ったことを班ごとにまとめる。 筆者の書き方の工夫の効果についてまとめる。
	4	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の工夫の中で特に効果的だと思った点を理由とともにまとめる。 互いの意見を聞き合いながら、考えを広げたり深めたりする。
	5	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館などで、日本文化について書かれた本を読み、仲間と感想を伝え合う。
以下 複合単元「発見、日本文化のみりよく」		
1	6	<ul style="list-style-type: none"> 「問いをもと」や「目標」をもとに、「発見、日本文化のみりよく」の学習の見通しをもつ。
	7	<ul style="list-style-type: none"> 題材を決めて、情報を集める。
	8	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成や表現の工夫を考える。
	9	<ul style="list-style-type: none"> 日本文化のよさを伝える文章を書く。
	10	<ul style="list-style-type: none"> 書いた文章を仲間と読み合いながら、自分の考えを広げたり深めたりする。

5 本時の目標 (3/10)

文頭表現や文末表現に着目して、筆者が自身の考えを効果的に伝えるために用いた書き方の工夫について、「表現の工夫」「絵の示し方」「論の展開」の3つの観点で読み取り、工夫の効果や筆者の意図を捉えることができる。

6 本時の展開

	ねらい	学習活動	研究との関わり
つかむ	<p>前時の学習を振り返り、前時明らかになったことを確認して本時の課題につなげることができる。</p> <p>文頭表現や文末表現に着目して筆者の書き方の工夫について読み取ることができる。</p>	<p>1. 前時までの学習を振り返り、本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵と文章を照らし合わせて、筆者の絵に対する評価を見つけました。 筆者は、「形」「大きさ」「色」「格好」などに着目して評価していました。 筆者は、絵の一部分から「表情」や「気持ち」に着目して評価していました。 <p>自分の評価を読者に伝えるために、筆者はどのような工夫をしているのだろう。</p> <p>2. 1・2段落を班で読んだ後、筆者の書き方の工夫を「論の展開」「表現の工夫」「絵の示し方」の3つの観点について班で考える。</p> <p>表現の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 第一段落の出だしがいきなり会話文から始まっている。 「返し技」「かわづ掛け」などの言葉で文末が終わっている。 「まるで人間みたいに」とたとえを使って表現している。 「ぱっとページをめくってごらん」「どうだい」などと呼びかけの表現を使っている。 <p>絵の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> つながっている絵を2つに分けて示したことで、絵が動いて見える。 3枚目に絵巻物として提示している。 <p>論の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> 漫画やアニメを例にして説明している。 絵についての描写とそれに対する解釈・評価などを繰り返している。 いきなり鳥獣戯画の説明するのではなく、実況中継みたいな書き方がされている第一・第二段落から読むと親しみをもって読めます。 <p>3. 班で話し合ったことを全体で交流し、その効果を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちも共感できる話題を例にして親しみやすいです。 同じ展開で話題を進めているので、分かりやすいです。 表現の工夫によって、テンポよく読めるし、自分たちも思わず引きつけられます。 ページをめくると絵が動いて見えて、面白く感じました。 <p>4. 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者は、自分の考えを伝えるために、読者である小学生の自分たちのことを考えて書き方を工夫しています。 読者を意識して書くことの大切さが分かりました。 	<p>【研究内容1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を振り返ることで、本時、本文のどの部分から読み取るとよいか見通しがもてるようにする。 <p>【研究内容2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「論の展開」について意見が出ない場合、鳥獣戯画そのものの説明が第三段落から始まっていることを指摘し、第一・二段落の必要性や役割について問いかけることで、構成に目を向けられるようにする。 「表現の工夫」の体言止めに気付けな場合、本文を何度も読み返させることで、テンポのよさを実感できるようにする。 「絵の示し方」について意見が出ない場合、1枚の絵がなぜ、2枚に分けられて提示しているのかを問い、絵に目を向けられるようにする。 <p>【研究内容1・3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「なぜ筆者はたくさんの工夫をしたのか」と問い、単元を貫く言語活動「日本文化のみりよく」を伝えるときに相手を意識した書き方をするとよいことに気付けるようにする。 <p>【評価規準】(思・判・表)</p> <p>筆者が自身の考えを効果的に伝えるために用いた、引きつけるような「表現の工夫」、アニメーションと似た「絵の示し方」、親しみをもちやすくするための「論の展開」などの工夫の効果や筆者の意図を読み取っている。(発言・記述)</p>
深める	筆者の書き方の工夫の効果についてまとめる。		
まとめる			